

# 降下

## 【懸垂線の留意事項】

- ・降下するためのロープを結着する箇所は、荷重に十分耐える堅固なものであること。
- ・降下する壁面等は開口部が少なく、崩壊の恐れがないこと。
- ・懸垂ロープはロープ2本合わせとする。
- ・懸垂ロープは降下方法に応じて、長さを調節する。
- ・ロープ保護の緩衝物は結着する箇所のほか、地物・工作物等の曲折部で、ロープが接触する箇所に必ずあてる。
- ・ロープ結着はロープの切断と支点の崩壊を考慮して、必ず二次支点を設ける。
- ・降下距離が著しく長い場合、ロープを1本ずつ結着する。

## 【降下方法の種別】

### ①身体懸垂

- ・ロープを体に巻き付け、ロープと体の摩擦を利用し、安定を取りながら、降下する。
- ・資機材を必要とせず、容易なため、懸垂距離が場合に使用する。

(1)首がらみ懸垂 (2)肩がらみ懸垂 (3)十字がらみ懸垂

### ②座席懸垂

- ・小綱で腰に座席結びを作り、座席結びに付けたカラビナにロープを巻き、巻いたロープの摩擦によって体を保持しながら、降下する。
- ・体への負担が少ない。
- ・要救助者・空気呼吸器・エンジンカッターを背負った際の降下もできる。
- ・降下途中で停止し、体を固定して作業できる。

### ③応急懸垂

- ・緩やかな斜面ではあるが、体のバランスによる降下ができない際に用いる。
- ・最も容易。

## 【降下の留意事項】

- ・降下のための壁面に出る際、懸垂点側のロープの緩みをなくし、体重を徐々にロープにかける。
- ・必ず皮手袋を使用し、降下速度の調整を行う。
- ・身体懸垂の降下距離は隊員の技量練度に応じたものとし、必要以上の長さとししない。
- ・身体懸垂を行う際、隊員自身の危険防止に配慮し、特に襟を立てて、首部の保護をする。
- ・ロープの長さは身体懸垂と座席懸垂とは異なるので所定の長さとする。